

2015年度 特別選抜Ⅱ 国際社会志向型

(自己推薦入試)

適 性 検 査

I 次の英文を読んで、問1～4に答えなさい。

The question is often asked: 'How can we live better and have a more positive effect on those around us?' Psychologists think they have some answers to this question and have created a set of simple guidelines we can all follow. By following the guidelines, we can become more effective in our relationships and become better people.

One thing that we often do is to think in categories. We often do this without knowing it. Think about people from the UK, for example. Do you think they are polite, old-fashioned and kind? Do you think they love to watch or play football? If you do, you may be thinking categorically. This is a common mistake, because British people are of course made up of many individuals. Two British people may share similarities such as being polite, but maybe one British person is polite while the other is less so. Or maybe one British person loves watching football, but the other hates watching it! Psychologists suggest that we try not to think in categories too much. They recommend that we speak to individuals and get to know them before making a judgment about them. This way the people we meet will feel like you are really interested in them and you may make friendships more easily.

The second way we can become better people is by trying to do the right thing, even when other people around you are not. Studies have shown that large crowds of people often do not assist a person in need of help. In fact, it is more likely that you will receive help quickly if there are only a few people around. So if you fall over in a busy place, nobody may help you for a long time! Why does this happen? Are the people in the crowd bad people who do not care? Not really. Actually, this happens because each person in the crowd thinks that another person will help; so they do nothing - the sense of individual responsibility gets weaker. But when everyone thinks this way, then nobody may help the person who needs it. So next time you are in a busy place and see someone who needs your help, try to act without thinking about what others around you are doing. This can mean helping a visitor who looks lost, giving up your seat to an elderly person, or calling an ambulance when somebody has an accident. Try to think for yourself and do the right thing!

Finally, psychologists recommend that we think about the situation other people are in if they behave badly. When we see a car going too fast many of us think: 'That driver is rude and dangerous and probably a bad person.' In fact, the driver is probably a normal person who is simply in a hurry. We should think about the situation a person is in when they do something, rather than blame their personality for it. So next time a friend is impolite to you, or gets angry without a good reason, try to think of why they are behaving that way. Is it because they have a bad personality or because they are basically a good person having a stressful day or worrying about something else in their life? If you find out what is wrong, maybe you can help them and make your friendship even stronger!

So, following these three simple tips can make you a more thoughtful, helpful and understanding person. Try them and see if they improve your life!

問1 In this passage, living better involves which of the following? [当てはまるものすべてを選び、()内に○をつけなさい]

- () Not thinking in categories
- () Working harder in your company
- () Ignoring what the crowd does
- () Thinking about the situation another person is in

問2 A person is in a doctor's waiting room with five other people. Smoke starts coming from the air conditioning unit. Even though the five other people ignore the smoke, the person tries to warn the staff about the problem. As discussed in the passage, this is an example of: [一つ選び、()内に○をつけなさい]

- () Not thinking independently
- () Ignoring the crowd and doing the right thing
- () Understanding the true reason why a person is driving too fast
- () Helping an elderly person

問3 According to the passage, a person who is having a heart attack is more likely to receive help in which places? [当てはまるものすべてを選び、()内に○をつけなさい]

- () A quiet residential street where there are a few people walking their dog
- () A busy street in Tokyo
- () An empty office
- () A crowded nightclub full of psychology students

問4 You see an Internet video of a police officer arresting two aggressive young men. The police officer hits one of the men on the hand with his baton. Thinking about the information in the passage, you conclude that the police officer: [一つ選び、()内に○をつけなさい]

- () Reacted as he felt was necessary?
- () Is a bad and violent person?
- () Always acts this way when he works?
- () Should be fired?

□ 次の文を読んで、問1～2に日本語で答えなさい。

ちよつと話はそれますが、原発事故のあとに思い出した寓話があります。

事故直後、放射能を怖れて遠くに避難した人たちがいました。本当は、避難することのリスクもあり、それを伝えている人もいましたが、放射能を過度に怖れていた人たちは、その危険性を強調するような情報ばかり見ていたから避難したのです。

あの時、本当は避難しないほうが良かった老人がたくさんいました。無理に避難することで、結果的に健康を損なつて、中には命を落としてしまった人まで出てしまいました。そのことは事前に言われていたけれども、なかなか伝わらなかった。

冷静に見れば、どう考えても影響がなさそうなところ、たとえば東京に住んでいるのに関西や九州に逃げる人までいました。警戒区域などではないのに、こういう行動に出る人がたくさんいると知った時に、少々乱暴な言い方ですが、「世間が壊れてきた」と感じたものです。少なくとも戦時中は、そんなことは世間が許さなかつたでしょう。

「少しでも不安があれば逃げて何が悪い」と言われるかもしれませんが、その人は、起きた状況と自分たちを切り離しています。それまで同じところに住んでいて、その場にとどまる人たちのことも切り離しています。少なくとも、その場にいる人たちと共にいようとは考えなかつた、ということでしょう。

もちろん、どういう行動をするのかは自由ですし、責めるつもりはありません。その時、思い出したのが、「テヘランの死神」という寓話でした。ヴィクトール・E・フランクルの『夜と霧』（みすず書房）の中に出てきます（以下、同書をもとに紹介します）。

裕福で力のあるペルシヤ人が、召使をしたがえて歩いてしていると、急に召使がこんなことを言い出します。

「今しがた死神とばつたり出くわして脅されました。私に一番足の速い馬を与えてください。それに乗ってテヘランまで逃げていこうと思います。今日の夕方までにテヘランにたどりつきたいのです」

主人が言われた通りに馬を与えると、召使はそれに乗って去っていきました。その後、主人が館に入ろうとすると、死神に会ってしまいます。そこで主人が、

「なぜ私の召使を驚かせたのだ、怖がらせたのだ」

と言うと、死神はこう答えました。

「驚かせてもいないし、怖がらせてもいない。驚いたのはこっちだ。あの男に、ここで会うなんて。やつとは今夜、テヘランで会うことになっているのに」

これは寓話なので、いろんな解釈が成り立ちます。どう解釈するかは、お任せします。

（養老孟司『「自分」の壁』による）

目 次の文を読んで、問1～3に日本語で答えなさい。

では活版印刷が普及する以前の世界で、本はどのような存在だったのか。それを知るのに恰好の本がある。歴史家ブルクハルトの『イタリア・ルネサンスの文化』（柴田治三郎訳、中央公論新社）である。ブルクハルトは、ルネサンスの二大情熱として「書物」と「建築」をあげる。教皇ニコラウス五世は、修道士の時から借金で写本を集め、教皇になって五千巻から九千巻のヴァティカン文庫を遺した。コージモ・メーデイチが親しくしたニッコロ・ニッコリは全財産を写本獲得に充て、一文なしになると、メーデイチ家がいくらでも融通した。当時書籍は写本であり、大勢の写本家や写字生が何月もかけて羊皮紙に書き写すものだった。キケロやソポクレスなどの古典が後世に残ったのも、こうした教会や君主の蒐集熱のお陰だった。

ブルクハルトによると、教皇や諸侯が抱えた人文主義者には、二つの大きな役割があったという。一つはラテン語による書簡の作成で、もう一つは、公衆を前にした演説を書くことだった。人々は、祝祭や婚礼などの場で、古代文献からの引用と美辞麗句を駆使した数時間にわたる演説に聴き入った。その背景を理解するには「当時古代の事物にたいする関心が強かったこと」と、印刷術が普及する以前で古代の書籍の編集出版が不十分かつ比較的まれであったことを、考慮に入れなければならない」とブルクハルトはいう。

もう一つ、ホイジンガの『中世の秋』（堀越孝一訳、中央公論新社）を見てみよう。ホイジンガは、中世におけるコミュニケーションの手段は、もっぱら朗読とその聴取にあつたと指摘し、当時の巡回説教師が、粗朶そだに火をつけて聴衆の心を燃えあがらせる「炎の言葉」を発したことを、克明に描写する。「ある説教師は、しばしば、聴衆を前にして、一五分ものあいだ、十字架にかけられた恰好をして、だまつて立ちつくしていたという」。しかし説教師が大衆に引き起こした感動は、記述資料に定着されることなく、その場で消え失せた。「現実には絶大の効果を生みながら、説教は、精神文化へのその遺産を、ほとんど残していない」。

活版印刷は、教会や王侯が専有していた書写本を市民に開放し、文学や思想、哲学などの書物を、神学や芸術のくびきから解放放つた。「芸術のくびき」からの解放というのも、それまでの写本は、豪華な装幀や細密画などの挿絵と切り離せず、それ自体が「芸術品」とみなされてきたからだ。一言でいえば、グーテンベルクの活版印刷は、書物から「聖性」を剥ぎ取り、「物質性」に置き換えたといえるだろう。その技術は、聖書の各国語訳を大量印刷して国民言語の形成を促し、書かれた聖書を唯一の権威とする新教の宗教改革に弾みをつけた。他方、活版印刷の登場で、聴衆の心を畏怖せしめた巡回説教師の演説や、圧倒的な言葉の力で兵士たちを奮起させた君主の雄弁術は廃れ、失われた。代わって登場したのは、黙読する新興知識階級と、文字を読めない大衆との分裂だった。教会や王侯による「知の寡占」を破った活版は、近代公教育が根づくまで、市民社会^Bのなかに大きな知の断裂を生み出したといえる。

（池澤夏樹編『本は、これから』の外岡秀俊「三度目の情報革命と本」による）

問1 本文の中から読み取れる、活版印刷が普及する前の「書籍」の事情を説明しなさい。

「」から↓

問2 傍線部(A)「教会や王侯による『知の寡占』」というのはどういうことか説明しなさい。

「」から↓

問3 傍線部(B)「市民社会のなかに大きな知の断裂を生み出した」というのはどういうことか説明しなさい。

「」から↓

IV 次の1～15の問いの答えを、下の解答欄に日本語(いわゆるカタカナ語を含む)もしくはアルファベットで書きなさい。

- 問1 : ある国家が武力攻撃を受けた際に第三国がその国と共同で防衛する、国連憲章第51条に基づいた国際法上の権利のことを何というか。
- 問2 : 第38回世界遺産委員会において正式登録された「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、何県にあるか。
- 問3 : 2014年6月に日本の国会で改正案が可決された、憲法改正手続きを定めた法律を何というか。
- 問4 : 2014年7月に、当該国の政府統計によって人口が初めて1億人を突破したことが明らかになった東南アジアの国はどこか。
- 問5 : 2014年にロシアに編入された、ウクライナに属していた黒海の北岸にある半島を何というか。
- 問6 : 毎年1月にスイス東部の保養地で開催される、世界的な実業家や政治家が集う会議をその開催地名にちなんで何というか。
- 問7 : 4年に一度開催される、近代「オリンピック」は、古代ギリシアのある都市で開催されたことにその名をちなんでいるが、この古代都市を何というか。
- 問8 : 2014年で戦争が勃発してから100年目を迎えた第一次世界大戦は、オーストリア＝ハンガリー帝国による、ある国への宣戦布告が起点となったが、この国とはどこか。
- 問9 : フランス人の美術評論家フィリップ・ビュルティによって命名された、ゴッホやモネの作品に代表される、19世紀以降のヨーロッパ美術における日本趣味のことを何というか。
- 問10 : 英語直訳で「公平な貿易」を意味し、社会経済的に弱い立場の人たちと公正な取引を行うことで、自立した生活を支援する貿易のことをカタカナ語で何というか。
- 問11 : 2010年のチュニジアでの暴動が起点となって北アフリカ、中東諸国へと拡大した一連の民主化運動の総称を、1968年にチェコスロヴァキアのプラハで起きた政治改革運動の通称になぞらえて何というか。

- 問 1 2 : 自文化を絶対視し、その尺度で他文化や人びとを否定的あるいは低く評価しようとする見方や態度のことを「民族」「人種」を表す接頭辞を含んだカタカナ語で何というか。
- 問 1 3 : 非営利で社会貢献活動や慈善活動を行う市民団体のことを、その英語名称の頭文字からアルファベット三文字で何というか。
- 問 1 4 : 1985 年に結ばれ、1990 年に補足された、ヨーロッパの国家間において国境検査なしで越境することを許可する協定のことを、調印されたルクセンブルクの地名から何協定というか。
- 問 1 5 : ムハマド・ユヌスが生みの親で、2006 年にノーベル平和賞を受賞する理由となった、通常の金融機関からは融資を受けにくい人々を対象とした小口融資の仕組みのことを何というか。

<解答欄>

1	2
3	4
5	6
7	8
9	10
11	12
13	14
15	